

文学部 研究室定員の導入延期

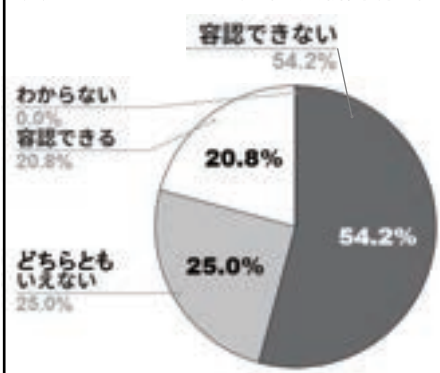
学生中心に想定以上の反発 通達時期などが争点



(上) 文学部の講義が行われる人文・社会科学総合教育研究棟

(下) 文学部教員対象の調査結果 (一部)

研究室配属の変更を、年度途中に予告なく通達したことについてどのように受け止めていますか。(北大新聞調査)



9月30日、北大文学部は来年度の研究室配属に定員制を原則導入しないと発表した。定員制を巡っては、2026年4月の導入が今年7月に通達されたことに對し学生が署名運動などを通して反発。北大新聞の調査では、文学部教員の約6割が導入に賛成する一方、過半数が「突然の通達に對しては容認できない」と回答した。1年生向け説明会では教務委員長が謝罪したが、2027年度から全研究室で定員制を導入する姿勢は崩さず、対立は消えていない。

「動揺招いた」教務委員長が謝罪

30日の文学部履修コース説明会では、定員制導入延期が発表された。2026年度は導入が撤回されたものの、27年以降は全研究室に定員を設ける見込みだ(実施されれば1994年度以来)。また一部研究室は26年度から独自に定員を定める。発端は7月16日の通達だった。「研究室によって配属学生数が大きく異なり、担当教員が個々の学生に対して細やかな教育研究指導を行うことができない研究室が出てきたため、今年度

の質問のほか、ウェブ上での反対署名運動を開始。2日間650筆以上が確認された。署名を始めた文学部1年の加藤優季さんは「学内外問わず多くの方に署名や応援の言葉をいただき、非常に嬉しい」と、説明会を求める学生らと活動する。北大教職員組合もHPやSNSで署名を呼びかけた。こうした動きを受け文学部教務は7月30日、学内教育情報システム「ELMS」上で川端康弘学部長・谷本晃久教務委員長の連名で書面を発表。年度途中での通達が混乱を招き学生に不安を与えた、として謝罪し経緯を説明した。だが加藤さんらの「文学部学生有志」(以下学生有志)は翌31日に「教育の質の保証には賛同する一方で通達時期など複数の点に問題がある」との見解を示し、8月12日までに

集まった約1400筆の署名と共に「定員制設置の延期の要請書」を提出した。さらに学生有志は、制度変更の影響を受ける1年生のみを対象に署名106筆を集め提出。対応次第で記者会見や法人文書開示請求も辞さないとした。川端・谷本両氏は署名を「強い懸念と真摯な思いの表れ」とし、9月5日の教務委員会でも来年度導入の方針を撤回。説明会では頭を下げたが、定員制自体の撤回には至らず依然、対立は残る。(取材・執筆・特集取材班) (2面)

北大主管の七大会開催

7つの旧帝国大学が一堂に会して行われる全国七大会総合体育大会(以下七大会)。9月19日にクレーク会館で閉会式が行われ、北大が主管校を担った大会が幕を下ろした。札幌を中心に北海道で行われた今大会を支える運営の声を聞いた。

七大会が持ち回りで主管校となつて開催される学生スポーツの祭典、七大会。その起源は1962年まで遡る。当時は各大学間で個々に交流戦が行われていたが、北大の学生の提案で

それらの交流戦が1つにまとめられ、七大会対抗で行われる現在の現在の形が作られることとなった。コロナ禍により第59回、第60回大会は中止されてしまったものの、第1回大会が開催されて以降、今大会で持ち回りは10周年となる。

今年の七大会には、全国から299団体、約8000人の選手が参加。2024年12月の冬季競技から始まり、9月19日の閉会式まで長期間開催された本大会は、札幌市周辺と学内施設

一部は他県の施設も利用して実施された。これほど大規模な大会の運営を支えているのは、北大体育会と同組織に所属する25人の実行委員だ。大会の準備は開幕の1年前、2023年の12月から行われた。彼らの役割は、各競技団体が選定した試合会場の把握に始まり、施設利用の手配、会場費及び審判費の補助など多岐にわたる。

運営に實際に関わる実行委員の近藤さんは「この歴史ある、規模も大きい大会に

北大構内に毒性植物

外来バイカルハナウドが同定はできず〈理学部〉



6月24日に、北大構内に毒性植物のバイカルハナウドと疑われるセリ科植物が発見された。バイカルハナウドは中央アジアを原産とする猛毒植物で、これまで日本での自生は確認されていなかった。樹液には光毒性があり、付着した部位が太陽光や紫外線に晒されると何年も傷が残る重篤な皮膚炎が発生、目に樹液が入ると最悪の場合失明するという。またこの植物は侵略的外来種(生態系を脅かす危険性のある種)でもあり、SNS上で「近所にも拡散していたら怖い」と大きな話題を呼んでいた。

会見によると、標本で種の混同が起きており信頼できる標本が参照できなかったため、本件の植物がバイカルハナウドかどうか特定できなかったという。こうした標本の混同は生物の遺伝子の違いが曖昧なため、珍しくない。一方で、毒性の強さは不明だが樹液に4種のフラノクマリン類(バイカルハナウドが持つ毒と類似した光毒性物質)の含有が確認されており、北大は警戒を呼びかけている。(取材・執筆・大野) (3面)

を呼んだ。全長・葉の形状、笠状の白い花がバイカルハナウドの特徴と合致しており、事態を重く見た北大は被害の防止・研究のため該当植物を回収、一帯を立ち入り禁止とし、7月3日に記者会見を開いた。

CONTENTS

- 七大会特集・コラム
- 旧北大新聞から読む 戦後80年を振り返る 6面
- 共生社会に向けて 北大さきプロ 7面
- 「北極星をえがく」 記念小説に迫る 8面

話題の人に会える!?

北大の「今」がわかる!
文理問わず大歓迎!!

THE MAINSTREET 北海道大学新聞編集部

新メンバー募集中!

ぜひ、北大新聞

活動に興味を持ったあなた!
公式 SNS のフォローをお願いします!
(北大新聞の活動の様子や速報がご覧いただけます) ▶▶▶▶





教員間にも認識の差 文学部教員に調査実施

〈1面から続く〉

2026年度の定員制導入は原則撤回となったが、研究室やGPAの制度・通達の時期・決定過程について議論と反発が続く、未だ合意形成や相互理解に至らない点がある。北大新聞では問題の混同を避けるため、最初の通達直後から次の3つを論点に調査を行った。

① 学生からすると、制度変更が突如提案・施行された様に感じられる

② 制度変更の決定から通知・施行までの期間が短い

③ 配属にGPAを用いることが年度途中に通達された

1点目の問題は、学生にとって本件の通達が全く事前に想定できない事態だったことだ。大学教育における方針・制度変更は、年度初めなどに通達されることが多く、入試制度・成績評価方法の変更などは通例に従っている。だが本件は4月に特段の通達が無かった。文学部教務が研究室間の人数の偏りを問題視していることや制度変更を検討していることを学生は想定できず、7月半ばの通達が「青天の霹靂」であった。

これに関連して、制度変更の決定から通達・施行ま

での期間が短いことが2点目の問題だ。学生有志の請求に基づき9月末に開示された過去の教務委員会報告から、定員制の提案は昨年9月頭で、10月に教員にアンケートを実施、今年3月以後も継続して議論が行われたことが判明している。

ただ定員制関連の事項が教務委員会拡大で承認されたのは6月27日であり、学生への通達はわずか19日後であった。文学部長と教務委員長は7月30日の書面で「教育の質の保証のためには、教育環境の改善を急ぐ必要がある」との判断により、次年度の進級者からの導入を決め、可能な限り早くみなさんに通知することとした」としているが、事情を明かされていない学生からすれば、急に配属制度を根本から変えられた様に感じるのも無理はない。

3点目の問題が「研究室配属にGPAを用いる」と年度途中に通達されたことだ。GPAは各授業の成績を数値化した「GP」の平均で、北大では総合入試入学者の学部決定や他学部での研究室配属にも使用される一般的な指標である。ただ本件の通達が行われた7月半ばには、既に一部の試験やレポート提出が終わって成績が確定し始めていた。文学部は「希望する研究室に必ず配属される」と長年謳ってきた

の教授がそう回答する。一方で定員制・成績順の配属の導入については58・3%が「賛成」、29・2%が「反対」と回答。「どちらともいえない」「わからない」は合わせて12・5%となった。この数字は、第3回文学部教授会(7月11日)資料の「教員」全体の6・7割が定員制に肯定的とする記載と概ね一致する。理由は、研究室間の学生数の深刻な偏りだという。文学部では近年人間科学コースの研究室が人気で、過去5年間の平均で34・6%の学生が人間科学の4研究室に集中。平均5・2研究室に過半数の学生が集中していた(全体は18研究室)。当該コースの教員は「特殊演習や実験実習を行う必要がある人間科学は、設備や指導の点で人が多しと大変」「一部の研究室において十分な教育がしにくい」と話す。配属人数の不均衡は長年話し合われてきたといい、調査への回答にも複数言及があったほか、竹澤正哲副教務委員長も「7・8年前から定員制の意識はあった」としている。

そして3点目の問題に関しては、GPA制度自体に対する見解の違いが影を落とす。加藤さんの様に「成績を度外視し学外活動に励んだ」という主張には「学生の本人は勉強で、良い成績を取ることを目指すのが当然。研究室配属で被害を受けても自業自得」という教員の回答もあった。ただこの意見に

は、関心はあるが得意ではない理系科目を履修した文学部学生」のことを考えていない」という反論もある。また30日の質問会では「病気を発症し1カ月半休学した。教員からは『文学部は成績に関わらず配属希望が叶うから、ひとまず進級を目指して頑張ろう』と言われた」と学生が発言。「2・4年生が指導を受けられず大変と分かるが、1年生はどうなるのか」と不安を漏らした。

そして「落単した授業がいくつあっても他が飛び抜けて良ければ通算GPAは高くなります(署名運動へのコメント)」としてGPA自体が不完全な仕組みだとする批判もあった。文学部の瀨名波栄潤教授は「医学部でGPAによる配属が導入された際、業に良い成績を取りうる授業ばかり履修する学生が増えた」と指摘する。ただ本件の通達・施行の方法を疑問視する文学部の別の教授は、画一的基準としてGPAが選択可能な最善手と言う。それでも既に成績が一部確定した段階での通達は不適切な点を押した。

説明会では「2026年度も行動科学と地域科学の2研究室のみ独自に定員を設け『通算GPA』を用いて選抜する」と発表され、GPA使用への反対層から落胆の声が上がった。説明会後に行われた質問会では「移行点を用いないのか」と聞かれた谷本晃久教務委員長が「面接や試験を行うことも考えた

が、(本人の能力と関係なく)志望に落ち続けた学生のメンタル等を考えると、GPAが公平公正」と回答。竹澤副教務委員長は「現状のシステムでは総合入試入学者以外に移行点が自動的に出ない。改変は技術的に不可能」とし、両氏共に移行点を選択肢に挙げたことは一度も無いと答えた。ただ学生間でも意見の差異があり、質問会では「移行点を考えてこなかった学部入学生にとって、履修の組み方が異なるため不利。GPAの方が良い」と反論の声もあった。

契約違反と想定外の反発

文学部にとって想定以上の反発が生じた本件。多くの対立や不信感、敵意が生じている。北大新聞の調査には、教員から次のような回答が寄せられた。「一部に攻撃的な傾向が見られるのは残念です。短期間で長文の回答を求める質問状を送りつけて学部の執行部・事務を疲弊させるようなことは、建設的な話し合いとは言えません(中略)私のような変更に対する反対の意見を持つ教員も、学生側につくことを躊躇してしまいます」。

また「文学部の現体制に何でもかんでも反対しようとする勢力があり、騒ぎ立てている」とする教員の声もあり、今回の事態が文学部内外の対立を深める危険性もある。別の教授はこう言う。「複数の教員が反対意見を述べたにも関わらず、執行

部はこの件を強引に教授会場で決定した」。瀨名波教授も、教授会で4・5人の教員が反対したと語る。教員・学生、教務委員会、本件が建設的議論と制度の検討ではなく、対立の場となつてはならない。

◆

文学部は今後どう対応すべきなのか。北大新聞の調査では、文学部教員の41・7%が「学生らと交渉・議論の場を設け調整を行う」べきだと回答した。その他「このまま通達通りに進める」が約29%「教授会で議題として取り上げ再考する」が約21%を占めた。質問会では「決定プロセスに学生が全く関わっていないというのはどうなのか」という発言に対し谷本教務委員長が「これは部局が決めることで学生が介入する話ではない」と発言。同様の内容は複数の教員から寄せられた。「文学部は研究室によつて事情・状況が様々である。その実情を学生諸君にも知ってもらい、柔軟な対応を共同で模索する」など、教員らの建設的提案を歓迎すべきだろう。

本件は対立の構図で見ると、本件は対立の構図で見ると、環境、学生指導と研究機会の確保、自由な学びと進路選択、学生との契約の順守――様々な思惑により本件は複雑になった。

「研究室は誰のためにあるのか」、その認識を再度すり合わせる時が来ている。(取材・執筆・特集取材班)

HOKKAIDO CHUO DRIVING SCHOOL

夜間10時まで教習
土日祝日も教習・検定実施



地下鉄
北24条駅
徒歩・約
8分

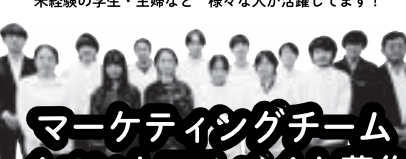
北海道中央自動車学校

北海道公安委員会指定

北海道中央自動車学校

〒065-0025 札幌市東区北25条東1丁目1-17 (創成1881) ☎011-711-3344

未経験の学生・主婦など 様々な人が活躍しています！



マーケティングチーム
イベントアルバイト募集

- 日払いのスポットワーク
働きたいときに働ける！
- 充実した研修
- 交通費実費支給
- 時給1,300円～
インセンティブあり！

詳しくはコチラから↓↓



朝日サービス
〒060-0001
札幌市中央区北1条西1丁目6番地 さっぽろ創世スクエア9F

北大新聞に
紙面広告

出しませんか？

- 年2回発行 / 各1600部
- 北大構内約30ヵ所
チカホ、道内の高校 etc.

詳しくは...
北大新聞 広告



で検索！

バイカルハナウド騒動からみる 外来植物と生態系

〈1面から続く〉

今回発見された毒性の植物だが、存在していたのは北大構内のみではないという。札幌市白石区東札幌のサイクリングロードでも北大構内で見つかったものと同種の植物が発見され、計40株の除去がなされた。さらに過去の写真から2007年にはすでに北大構内の同じ場所に自生していたことが確定し、他の場所にも既に拡散している可能性が示唆された。

物が生態系に大きな影響を及ぼさないと限らない。また、本件の植物に関しては人体に対する脅威も存在している。

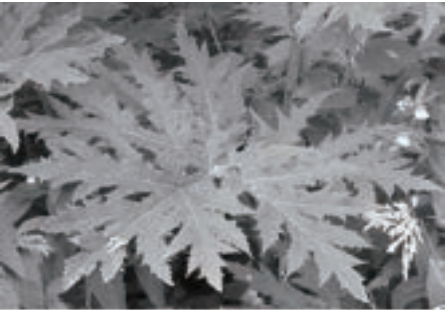
繁殖する外来植物

外来種の侵入に関して、増減や傾向の変化などについて尋ねた。「数で言えば100年前、国を跨いだ移動が活発になってから大幅に増えている。最近の増減については分からない。ただし、人間が意図的に外来種を入れることは減っている」と内海教授。近年外来種問題が活発になってから法管理が強まったため、人為的な侵入は減ったそうだ。

こうした外来種の侵入に関して一般に懸念されるのは生態系への影響だ。雑食で水生昆虫や魚類を捕食するため希少種の絶滅を招くアメリカザリガニや、高い繁殖力と生命力のために在来植物の生態系を破壊する危険性を持ったオオハナゴンソウのように、本件の植



オオハナウドの葉
(環境省ホームページより)



本件の植物の葉 (同上)

また、「外来種の侵入はヒアリのように水際で食い止めるようにしている」と語る。基本的に一度定着した外来種を根絶することは難しい。日本では現状、例えばヒアリの場合は荷下ろし後に海上コンテナを洗浄するなどして、そもそも外来種を上陸させないという対策が取られているそうだ。

ただ植物が日本で広く生育できるかどうかは別の問題となる。保護しなければ絶滅の危険がある希少在来植物もあれば、オオハナゴンソウのように繁殖する植物もいる。そこで繁殖する外来植物にはどのような特徴・傾向が見られるか尋ねると、「侵略的外来植物は多年草で無性生殖のものが多く」「そう。多年草は一年草と異なり2年以上に渡り同じ株から花を咲かせる植物を指し、一年草より長い期間土壌に留まるため定着しやすい。無性生殖は単一の個体のみで子孫を残す生殖形式を指し、有性生殖と異なりパートナーを必要としないため子孫を増やしやすい。特に地下茎による無性生殖を行う植物は、土地を先に占領することができるため繁殖しやすいという。これらの特徴を持った外来種は、しばしば繁殖能力や



定着能力の低い在来の希少植物を絶滅の危機または絶滅状態にまで追いやる。

北海道の湿潤部などで繁殖しているオオハナゴンソウ

市街地にありながら広大な面積を持つ北大の札幌キャンパスは多種多様な動物植物が自生する自然空間である。侵略的外来植物の存在は、その希少な植物空間のみならず植物との複雑な相互作用の中で生きる動物をも危機に追いやるリスクがある。ただし本件の植物は多年草で無性生殖を行うものの、各地のモニタリングによって上述の2箇所以外では見つからないという。幸運にも侵入能力が低く、他の場所には拡散していないことが予想される。

内海教授は、多年草かつ無性生殖の植物という条件を満たしていれば繁殖するというわけではなく、土地や気候との相性・他の植物の兼ね合い、その他様々な要素が複雑に絡み合っていると指摘する。本件には関係が薄い、通常の場合特に立地条件が重要だと語る。

「在来種が先住している所には外来種は入って来にくい。人為的に空白となつて

いる場所、つまり道路や空き地などに定着する場合が多い」。既に出来上がった生物環境を変える能力は植物にはなく、人間にしかない

そう。人やモノの移動が外来種を運び、人為的な空白に定着しやすい以上、港や空港は格好の外来種の定着場所となっている。そのため外来種問題は外国人問題とセットになりやすいのでそこも注意してほしい」と文化的な問題についても警鐘を鳴らした。

次に、本件の植物が毒を持つていたことから、見知らぬ外来植物を発見した際に注意するべきことについて質問した。内海教授は「見知らぬ外来植物に限らず野草は進化の結果、天敵から身を守るために多かれ少なかれ毒を持つている。安易に触らず、食べない方がいい」と回答。野草は多かれ少なかれ毒を持つているというところに記者は驚いた。シロツメグサやタンポポといった道端でよく見かける植物も、毒を有しているというのだ。確かにすべての野草が毒を持つているのなら、触らない方が安全だろう。しかし内海教授は、野

野草と毒

また北大構内にドクニンジンという、一説ではソクラテスの処刑に使われたとされている植物が自生している。山菜の一種であるヤマニンジンと誤認して、ドクニンジンと誤取した人が死亡するケースもあるという。しかしこれは致死性の毒である一方、ごく少量なら鎮痛剤や痙攣止めの薬にもなる。毒を持つているからと遠ざけているだけでは、薬としての利用は発見されなかっただろう。

「人々は基本的に身のまわりの植物について、どれだけの種であると識別していない(種を識別していない)ことはその毒性を理解していない」ということでもある。本件が話題になったときに、在来種のオオハナウドをバイカルハナウドと勘違いした報告が数多く北大に寄せられた」と内海教授は嘆く。オオハナウドは北大構内や札幌市内でもよく見られ、さらに一部のアイヌ文化においては「神の野草」と言われ儀式に用いられた重要な植物だった。オオハナウドと本件の植物は同じセリ科ハナウド属の植物であるが、見た目は異なる(左上図を参照)。しかしこれらを見分けられない人が大勢いたというのだ。筆者もそのひとりであるが、いかに周りの植物に対して目を向けていないかがよく分かる。

内海教授は「雑草ひとつひとつに注意して見分けられるようになれば人生や生活が豊かになる。今はAIアプリなども充実しているし、ただ毒を怖がるのじゃなく植物を識別する癖を持つてほしい」と最後にメッセージを伝えた。

植物の侵入性を様々な観点から判断することや、植物の毒を毒だからといって恐れるだけではなくその作用を知ることなど、内海教授の主張は一貫して目の前の事象を正しく理解すべきということにあったように思う。それが外来植物、ひいては植物全体と向き合う方法なのかもしれない。

(取材・執筆:大野)

創作・漫画同人誌展示即売会
北海道COMITIA22
2025/11/3 (月・祝) 11:00-15:00
札幌コンベンションセンター
〒060-0808 札幌市中央区南一条西5丁目1番1号
011-261-0000 (受付) 011-261-0001 (会場)

■ディーズマガジン北海道予価 1,000円 (一般参加者全員購入制)
■オンライン申込受付期間 2025/5/27 (水) 13:00 ~ 2025/6/25 (月) 18:00 必着
■郵送申込締切 2025/6/18 (月) 必着 ■郵送料 400円、委託 20 セール募集
■定価参加費 1up 4,500円 ■委託参加費 3up 3,500円、6up 5,000円
■一次創作のみ参加可、コスパレ不可 ■展示参加も可 (別途お問合せください)

主催: COMITIA実行委員会 後援: 北海道文化振興局

SHIROISHI MIKE & 3 CAR
CHUO!!!!
LOVE
FUN
GO DRIVING.
GOOD! SAFETY HAPPY!
SHIROISHI CHUO

白石中央自動車学園
TEL.011-861-3334
〒060-0604 札幌市白石区本通2丁目南6番22号
https://www.shiroishibus.co.jp/

地下鉄東豊線「白石駅」7番出口から徒歩1分
●白石中央自動車学園 白石駅前バス停より徒歩1分
●白石中央自動車学園 白石駅前バス停より徒歩1分

北の大地で散る火花 第64回七大戦特集

七大戦へ「泳泳打破」 水泳部白熊会

7月5日午前8時、記者は札幌市中央区のスポーツクラブの前にやってきていた。北大体育会水泳部白熊会の取材のためである。迷いながらも入口につくと、笑顔でマネージャーが迎えてくれた。案内されるがままに階段を上り2階の室内プールに入ると、20人を超える白熊会部員たちが、全国七大学総合体育大会（以下七大戦）に向けた練習の前半を終えたところだった。

主将の山田陽登（はると）さん（文学部3年）が号令をかけると、後半の練習が始まった。25メートルプールの1レーン毎に4・5人の部員が並び、スタートの合図を待つ。そして、室内に響き渡るマネージャーの掛け声とともに列の一番前の選手たちがスタートした。最初の種目はバタフライだ。腕を大きく広げ、水しぶきを上げながら泳ぐ。前の人と距離が離れると、後続の選



休憩中の部員の様子

手たちもスタートする。時を経ず先頭の選手が向こう岸についた。彼らはレーンの右側を泳いでいる後続の選手の妨げにならないようレーンの左側に移動し、バタフライを再開する。往復しスタート地点に戻ってきて、初めて一息つくことができる。しばらくしてレーンの最後列の選手たちがスタート地点に戻ると、最初先頭にいた選手たちは今度はクロールを始める。

選手たちは短い休憩を挟みながら背泳ぎ、バタフライ、自由形とプールを4度ほど往復した。その後、最後の部員がスタート地点に戻ると、水飲み休憩がとられることになった。休憩時間中は水を飲む者、仲間と談笑する者、泳ぎ方の確認をする者など様々だ。選手たちは泳ぎの合間に主将の指導やタイム確認、水飲み休憩を挟みながら、25メートルプールを幾度となく往復した。その日の練習では、合計で3・6競泳いだそう。

練習後、主将の山田さんに部としての目標を聞いた。昨年度部としては7大学中男子3位、女子6位だった白熊会だが、山田さんは「今年は1つ順位を上げたい」と語る。今年の白熊会のスローガンは「泳泳打破」。「泳いで泳いで試合の時の緊張

も、ライバルも吹っ飛ばしてやるう、というのでやっていて、気合入ってます」と笑顔で話してくれた。

七大戦競泳の部は7月20・21日に函館で行われ、白熊会は男子5位、女子6位となった。

（取材・執筆・撮影：大野木本）

ボールは北海道の空高く 北大ソフトボール部

七大戦のソフトボール競技が、9月2・3日にはまさに国体記念石狩市スポーツ広場で行われた。北大のソフトボール部は2日に大阪大と九州大、3日には名古屋大と東北大と対戦。1勝3敗、順位は6位という結果で七大戦を終えた。



七大戦を終えた部員ら（北大ソフトボール部提供）

北大ソフトボール部は2006年に設立された体育会所属の部活動。現在は男子選手22人、女子選手9人

コラム 七大戦の眼

道内でも上位の実力を誇る白熊会。その練習は、見ているだけで胸を熱くさせるものがあった。マネージャーたちのプール全体に響き渡る号令。選手たちのエネルギーが溢れ出す。中でもバタフライは最も迫力があった。選手が腕を回す度にしぶきが上がり、海面を跳ねる度に波が起る。選手たちが一斉にバタフライをする姿は、魚の大群が遙かな海原を往く姿を想起させる。さらに、この勢いで選手たちは3・6競泳を泳いだというのだから驚愕だ。記者は高校の水泳の授業で、プールを数往復した程度で疲労困憊になった記憶がある。体力・気力ともに抜群の白熊会部員たち。彼ら彼女らが目前に迫る七大戦でどのような結果を残すのか、今から楽しみでならない。（執筆：大野）

マネージャー4人を含めた35人で活動しており、週に4回、朝6時から練習を行っている。このチームの強みを「投手力を中心とした安定した守備、そしてどの打順からでも得点のできること」とキャプテンの長岡和（やまと）さん（工学部3年）。チームの中心である大江碧輝（あおき）さん（法学部3年）らと共に練習メニューなどを考えているという。



次の練習メニューを全員で確認する

七大戦に向けて
8月29日の早朝6時、部員たちの姿は札幌キャンパスの原生林の中に位置する、北大B球場にあった。この日はウォーミングアップから始まり、キャッチボールやノック、試合形式の練習などを行っていた。練習の中では「何もしない時間」が生まれずに意識しているという。限られた練習

時間をも最大限に活用するため、投手がノックを受ける時には投手はピッチング練習、班分けを行っての練習をするなど至る所に工夫が見られた。また、走攻守の全ても練習できるようにしている。七大戦を見据え行われた試合形式の練習では、選手が3班に分かれ全員が守備走塁に参加していた。

挑む、七大戦

9月2日、七大戦の日がやってきた。長岡さんはこの大会への意気込みを「主管校として円滑な運営をして

いきたい。また、新しく入った1年生の実力の発揮の場としつつしっかりインカレ出場校としての実力を発揮したい」と語る。七大戦は90分制のルールで行われる。4チームと3チームの2ブロックに分けられ、それぞれ総当たりが行われた後、上位ブロックと下位ブロックに分かれ、順位が決まっていくという流れだ。

北大との第1試合、北大は初回、4番友枝佑太さん（総合文系1年）の犠牲フライで幸先よく1点を先制する。その裏セカンドゴロの間に同点に追いつかれると、その後は得点を挙げることができず。3点ビハインドで迎えた5回表、相手投手の制球が乱れ5つの四球など、4点を取って逆転。しかし、90分制打ち切りという七大戦のルールによりこの回の得点は認められず。北大は1対4で敗れた。第2試合は九州大との対戦。先発伊藤京介さん（工学部2年）が初回からスリランホームランを被弾するなど、5失点と苦しい立ち上がり。ただやられてばかりでは終わらずその裏、3番大江さんにもソロホームランが生まれ1点を返す。しかし反撃はここまで、毎イニング得点される試合展開となり、9対1での敗戦となった。

9月3日の試合では、名古屋大に16対6で勝利したものの、東北大に5対9で敗戦。総合6位という順位で大会を終えた。

七大戦のその後へ

悔しい結果となった今年の七大戦。この大会中、北大ソフトボール部は試合間のグラウンド整備など運営に関しても中心的な役割を担っていた。長岡さんは「まず運営側としては大会が円滑に終わって一安心ですが、インカレ目前の中で6位で終わってしまったことは非常に悔しく思います。ただ気持ちはいかなり引き締まったと思います」と大会を振り返る。七大戦の3日後にはインカレ本戦を控える。チームもこの敗戦に挫けることなく、目前に控えたインカレへと進んでいった。

（取材・執筆・撮影：安藤）



ホームランを放つ大江さん



広告サイズ 最大 238mm!!

紙面ならではの幅で「北大生」に広告を届けませんか？
北大新聞はキャンパス内約 30 カ所で配布、SNS と違った層に届く！

北大新聞 広告

※1：下2段44行の場合の横幅サイズ

「夏と、野球と、応援団」

北大応援団

8月12日に始まった第67回七大会戦野球、北大硬式野球部は主管校として東大と対戦した。大会あるところに応援団あり。今回は、北大硬式野球部を応援する北大応援団に取材した。

試合開始のサイレンの前から応援団の活動は始まる。太鼓の音も相まって体の芯まで響くような応援だ。その気迫、熱量は衰えることなく試合終了まで続いた。

投手が一球投げるごとに、打者に球が投げられることに応援は行われる。その気迫のこもった熱い応援はグラウンドに立つ選手に力を与える。

応援は応援団だけで行うものではない。観客も自分の家族を、先輩を、恋人を、地元の若者を応援する。応援団は観客を応援に巻き込

む工夫を何重にも凝らしている。特に印象的だったのが守備交代の間に行われるフリップを用いた小嘶だ。応援団員は守備交代の間に、北大や七大会戦にかけた縁起の良い小嘶をフリップを使い観客に伝える。すべての小嘶が「つまり今日北大は勝ちます！」につながるのがテンポが良く、気持ちいい。

試合中での応援に観客を巻き込む心を忘れない。「今から打席に立つのは先ほど素晴らしい守備を披露してくれた○○選手です！みなさん○○選手を応援しましょう！」と印象付けを行い、ヒットが出ればハイタッチ、点が入れば観客を巻き込んで踊るなど、観客の応援への没入を促し、一体感を作る。

何よりも印象に残ったのは応援団の細やかな心遣いである。観客に北大カラーのメガホンを配り、帰るときは客席に忘れ物がないか確認する。このような細やかな心遣いの積み重ねが良い応援を作っていくのだ。

全身全霊の応援に押され北大は東大を2点で抑え、4対2の快勝を収めた。観客と応援団が一体となり、勝利を祝して歌った「都ぞ弥生」は今日一日の応援を如実に表している。素晴らしい。



左から外ノ池（とのいけ）團長（工学部4年）、鳩貝さん（工学部2年）、早坂さん（医学部3年）

勝利を祝す「都ぞ弥生」

試合終了後、片付けをして帰る道中、応援団の方々は選手の家族や地域の人など様々な人から温かい言葉をかけられていた。「素晴らしい応援ありがとう」や「今度も期待してるよ」など皆が応援団を温かく見送る。

楽器や小道具を車に乗せた後、すぐに反省会が始まった。今回の応援の良かった点、改善点をぶつけ合い、次の応援のために常に向上し続ける応援団の魂を見せてもらった。

外ノ池団長は今回の試合について、「東大は直近の試合でも戦績が五分五分で、ライバルともいえる因縁の相手、それに加えてこの試合は北大の決勝進出が決まる重要な試合だったので、自分たちも選手の方々も燃え上がっていた」と話してくれた。応援する相手の熱量に応え、より熱く応援する、その姿勢はまさに応援団である。

1年の時、応援団のステージにあこがれて入団したという早坂さんは、北大応援団の特徴として扇子や羽織、ほら貝、ぼろ羽織を用いた応援方法をあげてく

れた。それらは自分たちの「伝統」と「自由」を表すものであり非常に誇らしいと語る。

ぼろ羽織をまとい応援に望んだ鳩貝さんは、前述した小道具に加えて「電子機器に触れてはいけない」というルールがあることを「うちの応援団のここがすごい」と紹介する。どちらも伝統を重んじる応援団の姿勢に誇りを持っている。

鳩貝さんは自身が身に着けている「ぼろ羽織」についても説明してくれた。「ぼろ羽織は元々普通の羽織であつたが、代々継承していくにつれ切れ衣を足してゆきできたものだそう。ぼろ羽織を羽織るものは歴代応援団員の思いを背負い応援にのぞむ。

北大が初の連覇を達成

第64回七大会 閉幕

第64回全国七大学総合体育大会が9月19日に閉幕した。旧帝国大学の7つの大学の間で全43種目で順位が競われ、北大が総合優勝を果たした。

七大会は7つの大学が主管校を持ち回して開催される。昨年度は名古屋大の主管のもと北大が非主管校として初の優勝を遂げており、今回の試合は北大初の2連覇がかかっていた。

最終総合順位は、2位の九州大に17・5点の大差をつけ、北大が239点で優勝。全43種目中12種目で1位を獲得した。

最終総合順位は以下の通り。

- 1位 北海道大 239点
 - 2位 九州大 221・5点
 - 3位 東北大 199点
 - 4位 京都大 191点
 - 5位 大阪大 188点
 - 6位 東京大 184点
 - 7位 名古屋大 137・5点
- （七大会公式HPより）
- 七大会実行委員の近藤さんは結果について、「北大が優勝したことは心から嬉しい。これは各競技の選手の皆さんの頑張りが積み重なって得られた結果です。本当におめでとうございます」と喜びの声をあげた。
- また、今大会では初の試みとして、公式YouTubeチャンネルを用いて競

いるという。応援団同士の交流では「その喉アイテム使うよね」とか「暑さでのご飯がとけてくつついちゃうよね」だとかいう「あるある」が交わされるらしい。

逆にそのような交流の中で、北大応援団はほかの応援団に比べ規則が緩いことに気が付いたと語る。ほかの応援団は「応援団長とすれ違つてはいけない」という厳格なルールがあり、入退場のとき非常に気を付けるそうだが、北大応援団ではそこまで気にしない。そのようなおおらかさの源はなにかと聞くと、「やっぱり、見てもらったらわかる通りうちの応援団は特徴的だから、そのような風土がその、多様性や、自由さ、を生み出して

いるんじゃないかな」と答えてくれた。

入学式で総長が語った「北海道大学は多様性と自由が芽吹く場所」という言葉の通り、おおらかな北大生による応援団にはほかにない氣質で溢れている。

（取材・執筆・撮影：山口）



勝利を祝す「都ぞ弥生」

マーケティングチーム イベントアルバイト募集

●日払いのスポットワーク ●時給 1,300 円～ インセンティブあり！

詳しくはコチラから↓↓

株式会社 朝日サービス

〒060-0001 札幌市中央区北1条西1丁目6番地 さっぽろ創世スクエア9F



自動車免許は SOEN で！

オンライン 学科教習 24時間 視聴可能

北大そばまで 無料送迎バス 運行中！

桑園自動車学校

札幌市中央区北8条西14丁目 (北大から自転車 約5分！)

記事再考

戦後の市民、高みの見物

当時の北大新聞から読み解く過去の日常

2025 年は、第二次世界大戦で日本が降伏してから 80 年である。この区切りというのは、戦争が終わってからおよそ人の一生に値する時間が過ぎたということであり、戦中に生きた世代から戦争の知識を継承する世代へと移り変わったことを表している。

日本に限ってみると、この 80 年の間、日本が他の主権国家に対して実力を行使したことはなく、戦争によって生活が変化させられることはほぼなかった。この平和と呼べる期間が現在まで続いていることは大変喜ばしい反面、戦争の影を感じながらも日常生活が変わらず続くことを願った過去の人々の苦悩を想像することが難しくなっている。

内戦や国家間の軍事衝突がない世界を目指すためには、まさにその最中にいた人々が世の中の動きと日常の漸次的な変化をどのように感じ取っていたかを参考に、現在の我々の状況を推し量る必要がある。世界大戦とは呼ばれずとも、争いの絶えない状況が現代には存在するということを決して忘れずに、過去の世界を覗くことにする。

1939 年から 17 年の間に発行された北海道帝国大学新聞の紙面を参考に、当時の様子や学生の意見を取り出した。

北大新聞に載せられた記事の中で一貫して取材の題材となっていたのは、満州開拓に関する記事だ。これは満州での生活をつづつたものや、これから行く学生を称えるものなどがある。満州一帯への移住も推奨されていた時期であるため、誰が移住し、何をして、どのような成果が生まれているかという事柄が国内の日本人にとって需要のあるニュースとなっていたからだろう。性質は全く異なるが、まるでアメリカのメジャーリーグへ行つた日本人選手のニュースが毎日、日本のワイドショーで流れるようなものだと思像すると雰囲気を感じ取りやすい。

さて、満州への開拓団が定期的に日本から出立していたが、それは今でいう交換留学生のようなものであり、異国の地で生活することへの不安と他の学生を代表する責任感が背中合わせであったという。当時の北大新聞から出立する学生の描写を探すと、「挺身部隊」に所属する学生らを形容するために「悲壮感・責任・覚悟」などの単語が見られた。

戦争が本格化していくと「学徒出陣」を報じる記事も増えていく。「学徒出陣」に関する記述は日本軍の進撃を勇ましく表現したり、総力戦の力強さを中心に置いたものが目立つ一方で、満州は、不衛生で貧しく、開拓事業も重労働であると書かれている。

満州や華北での生活は移住者と日本本土との交流があるために比較的詳細に市民へと伝わる。しかし、戦場に関する情報は市民まで伝わらない。

記者がこの事例を取り上げた理由は、市民の生活により多く関わっている方が実態に関する詳しい情報を手に入れられるということ以上に、情報の不均衡があることによって実態以上の評判が一般人の間に流布することがある事例だからだ。大雑把にこの現象を現代に落とし込めば、報道における情報の空白は、偏向報道といったような言葉に置き換えられそうだが、けれども、個人的に正しい表現は先入観、思い込みという言葉ではないかと思う。というのも、確かにプロパガンダによる兵役の印象操作はかなりあったと思われるが、紙面に書き起こされる情報の深度が全く異なるのだ。

報道は、誰が対象で、いつから始まり、そして出陣する意気込みが話されるのとどまるのだ。かたや、計画・実行・反省の段階をふんでいるというのに、一方では計画の段階しか分からない。兵士はすでに戦地へ赴いているのに。

外交に関する国際関係の時事も興味深い。

（以下は記事の要約）

「独伊が民主主義国に与さない内は日本が窮地に陥ることもないだろう」「日本の政策に強く反発しているのは英国であるが最近（1939 年 2 月 21 日）の強硬な米国の態度も気になる」「中国の共産化を防ぐことも考えた

ら民主主義国も日本の東亜共栄圏をいざれ認めるだろう。反日統一戦線も強固なものではない」という意見が見られる。

この内容は、結果論で言えば北大新聞の記事の考えが浅いとも捉えられる。しかし、アメリカに比べれば日本の諜報活動の規模はかなり小規模であったようだから、その点を考慮すれば十分、筋が通っているものだと考えられる。

ひとつ、これらの記事から現代の私たちにつながる学びを見つけ出すとしたら、「強硬な米国の態度」という箇所である。現代では戦勝国という箔もついで戦前よりも国際関係における立場が強くなっているとはいえず、当時の考察も踏まえるとアメリカには根本的に国力が

アメリカには根本的に国力が培われやすい環境にあると感じる。それは農業、林業、鉱業、工業を始めとする国の基幹産業の割合が上手く釣り合っていることだと思う。平たく言えば、生産と市場の輪が一つの国の中で完結しているということだ。

現代では極度の国際化によって自立した経済を自国の政府だけで管理することはできないと思うが、経済において他の国に対する依存が少ないことは外交において自らの意見を通すための基礎的な力になっているのだろう。

現在のアメリカ大統領はドナルド・トランプ氏であるが、例えば欧州との連携が弱まっているように見えるのも戦前と同様にアメリカという国の自立した国家

運営のためだろう。

◆

日本が軍部独裁のファシズム的体制になったから戦争への道を突き進んだという考え方が主流であることは前提として、筆者は戦争の原因の 1 つに、開発する際の資本投下し難があったのではないかと想定している。これは数百年の紙面を読んで、華北と満州の駐在記や旅行記の記述に、街の発展の様子や苦しいながらも楽しみを見出すといった積極的な感性が欠けていたためだ。開発に時間がかか一方で、お金を投下してしまつたために資本を引き揚げられないという板挟みの状態であつたのだろう。

（取材：安藤、執筆：吉村）



1943 年 (昭和 18 年) 6 月 22 日発行の紙面。1 面の見出しには「報国隊地方部結成 待望の出動命令下る 近く勇躍某地へ新発」とある。約 2000 人の学生が前後期に分かれ、報国隊地方部として出動する。当時の学生たちにとって戦争が身近なものであった様子が伺える

北海道大学新聞・創刊100周年

北大新聞は皆様のおかげで2026年5月14日に創刊100周年を迎えます
活動継続のためご寄附を募集しています



共に生きるいじょうを考える

『ぼくが生きてる、ふたつの世界』上映会・呉美保監督特別講演開催

8月24日、北大大学院教育推進機構リカレント教育推進部は、『ぼくが生きてる、ふたつの世界』上映会と呉美保（おみほ）監督特別講演を開催した。

このイベントは、札幌市の、令和7年度大学と民間企業等との連携による公益的事業の推進事業補助金「札幌の劇団他と連携した『共生を支えるコミュニケーション・マネージャー』養成事業」の一環。社会人向けの学び直しのプログラムである「共生を支えるコミュニケーション・マネージャー養成プログラム」（ささプロ）の今年10月の開講に先立って行われた。想定以上の参加申し込みがあり、定員を180名から270名まで増やしたそうだ。

映画『ぼくが生きてる、ふたつの世界』は、耳が「きこえる世界」と「きこえない世界」を行き来するコーダ（耳がきこえないまたはきこえにくい親を持つ、耳がきこえる子ども）の主人公の葛藤

を描いた作品だ。コーダである作家・ライター五十嵐大さんのエッセイを原作としており、主演は吉沢亮さん、その両親役は忍足（おしだり）亜希子さんと今井彰人さんが演じている。忍足さんと今井さんは実際にろう者でもある。無音の場面もあれば、喧騒がよくきこえる場面もあるのが、「ふたつの世界」を表現しているように感じられて、印象的だった。

映画は、バリアフリー字幕付きで上映された。リカレント教育推進部の種村剛特任教授によれば、上映作品としてこの映画を選んだ理由の1つには、「ささプロ」にテーマが近いことがあるという。この作品はコーダの映画ということで、きこえる人ときこえない人がどのように関わっていくのか、共生について描かれている。

映画上映後、呉監督の特別講演は、監督の手話と口話での自己紹介から始まった。

耳がきこえないまたはきこえにくい親を持つ耳がきこえる子ども。両親とも耳がきこえない場合も、一方だけ耳がきこえない場合もコーダと呼ばれる。親の聞こえの程度、家族間でのコミュニケーションの方法も様々であり、手話を使わない場合もある。幼い頃から親の手話通訳をしていることも多い。



左から呉監督、聞き手を務めたリカレント教育推進部の種村特任教授、手話通訳者

た。その後は手話通訳が付き、参加者から事前に募集した質問に監督が答える形で進められた。

ろう者の俳優をキャストイングしたことについて聞かれると、「映画制作前にもろう者やコーダの方にお話をうかがう機会がありました。ほぼ全員の方が、ネイティブ手話ユーザーではない人が手話ユーザーやろう者として演じることに對する違和感を持っていた」と振り返る。「英語を話す方が生粋の日本人を片言の言葉で演じてるくらい変なんだ、

ステイキングした理由だと答えた。

ろう者の俳優に演じてもらうにあたって、『コーダあいのうた』では、手話の演出を担当するディレクター（DSL）をつけていたことから、「日本では手話翻訳とか、手話指導、手話監督とかつていう肩書きはそれまでもあったんですけど、確かに手話演出だった手話監督というのは、なかったなと思って。今回はそこをきちつとやること、まさにこれまでにない映画であり、自分が今やるべきことだと、取材を経て思っていた」という。実際、『ぼくが生きてる、ふたつの世界』の撮影現場には、手話演出・コーダ監督・手話コーディネーター・手話通訳合わせて8人ほどが常に参加していたそうだ。

映画制作時の心掛けたことについての質問に対しては、「世の中、特に日本社会で、どれだけの人たちが大きな夢を抱いて、そこに向かってサクセスストーリーを作っているのだろうというも思うところがありまして。夢を持つことはすくいいことだけれど、持たないことがどうなのかという疑問もあって。この作品は何でもない日常だけれども、例えば、ふと出会う人によつて自分の持っていた価値観がころつと変えられたりとか、なんでもない日常から小さな喜びを得たりとか、そこに自分の大きな指針だとか目標みたいなものがなかったとしても、ただそこでちよつと信頼できる仲間がいて生きてるっていうことの素晴らしさというもの、そこに毎日気づいていなくてもいいんですけど、そういう日々の営みから見える人生の愛おしさみたいなものを、この映画では描きたかった」と語った。

社会人向け講座

「ささプロ」開講

講演後は「共生を支えるコミュニケーション・マネージャー養成プログラム（ささプロ）」の説明が行われた。ささプロは、「共生を支えるコミュニケーション・マネージャー（ささマネ）」を養成することを目的とした社会人向けの講座だ。ささマネは、地域やコミュニケーションの課題解決を目指す「共生のまちづくり」の実現を目指すイベントを、構成・計

画・実施・運営する人材のことを指す。

札幌市は、2022年に「第二次札幌市まちづくり戦略ビジョン」を策定した。これは「まちづくりの重要概念として、ユニバーサル（共生）・ウェルネス（健康・スマート（快適・先端）」を定めている。また、2025年4月には「札幌市誰もがつながり合う共生のまちづくり条例」を制定した。これらのことから、「ささマネ」のような存在が求められて

いると言えるだろう。この講座は、必修科目のオンデマンド講義と演劇創作集中演習、選択科目のワークショップで構成されている。演劇創作集中演習では、札幌市の劇団の役者とともに演劇を創作しながら、エンパシーについて学ぶ。8月から9月にかけて受講者の募集が行われた。10月から開講される。（取材・執筆：佐藤写真提供：usagi Mark photo）



講演会后、リカレント教育推進部と「ささプロ」の説明が行われた

えるむ歌壇

【第十三回】

吹く風に枯れ木は揺れる梢まで青葉の不在を察せながら／辻村龍翔
青はんだ落ち葉をしずかに踏んでゆく薄暮に煙草の真火のいくつか／空木洞
全国の一步手前で負けた日を、鰯船に指を立てて思った／横山航路
秋、冷えてとがってゆくわ、街中の電信柱を赤く染めたい／小西電波
おとといまで泳いでた鯉がここにいて／ルウエーのより真面目な顔で／爽和とおこ

提供：北海道大学短歌会

新企画

記者
読者

北大新聞に調べて欲しいこと
ありませんか？

新連載「記者＋読者」がスタートします。
X(旧 Twitter)やInstagramのDM、メールにて
北大・北大生にまつわる身近な話題をお寄せください。

連作小説「北極星をえがく」

7月25日から配布開始

創基150周年を迎える2026年8月を前に、北大ではさまざまな事業が行われている。古河講堂の改修・活用事業、人材育成事業「イノベーション・フロンタリナー」の育成、子ども向けの図書施設である「こども本の森」事業を始めとして、多くの企画が予定されている。

とともに小説を作り上げてきた野口さん。実は「北大を舞台にした小説のアイデアは、岩井さん自身から発されたものだったという。

元々、2024年の春に「ホームカミングデー」のビデオメッセージや、広報誌「リテラポブリ」の卒業生インタビューの打ち合わせで顔を合せていた野口さんと岩井さん。東京で取材をした際、150周年の話題が出る、岩井さんは自らの学生生活を懐かしみ「北大を舞台にした小説を書いてみたい」と思っている」とこぼした。

北大創基150周年記念事業のひとつである、北大出身の小説家・岩井圭也さんの連作小説「北極星をえがく」。全5話の幕開けとなる第1話が、7月25日から道内外各地で配布されている。

大学と小説家が提携し小説を世に送り出すという、これまでになかった取り組み、手探りの道のり。

本企画の大きな目的は「道外のたくさんの方に、北大のことを好きになってもらうこと」。北大社会共創部広報課の野口明広課長に、小説配布開始までに込められた努力と想いを取材した。

野口さんと岩井さんの

出会い、

岩井さんと北大の「再会」

本企画の構想が誕生した瞬間から、作者の岩井さん

ために「北大の今」を知ってほしいという思いがあった。それにおいて岩井さんが「特別」だったのは、修士課程修了からそれほど時間が経っておらず、現在の北大キャンパスの様子や北大生の過ごし方を知っている人物であること、作風として若い主人公を描いたものが多く、等身大の大学生を描けるような小説家であると思われることだ。

当初の計画

初秋を迎えていた。野口さんは、岩井さんからの打診を受けた1週間後、東京で顔を合わせた。

当初の計画は、全5本の短編。2026年9月末の記念式典を見据え、7月下旬に最終話の5冊目をリリースする。逆算して、3か月に1本、2025年7月から発表しようと考えた。2026年4月末に発表予定の4冊目は、ゴールデンウィークで北海道を訪れた人にも手に取ってもらえる可能性が高い。

「北大の今」を伝える

北大出身の小説家は、岩井さんひとりではなく、何人かいた。

しかし、野口さんには、150周年を機に全国的に北大を知ってもらいたい、応援してもらいたい、その

入れてみたい、卒業生が入ってもいいかな、と当初は考えていた」と野口さんは話す。その方向で岩井さんにもプロットを依頼していた。

しかし、計画は変更となり、5冊を通して1人の主人公の成長記とすることに。それには、もうひとつの大きな役者の影響があった。



インフォメーションセンターエールの森に配架されている北極星をえがく

岩井さんと祥伝社

小説を作るのには、小説家だけでなく、編集者の力も必要だ。「構成や校閲はプロの方に任せていただけばありがたい」「どこかの出版社さんに相談してみたい」と考えていたと野口さんは話す。岩井さんは、自らの執筆活動においてこれまで深く関わってきた出版社である、祥伝社を提案した。

この祥伝社の助言によって、小説の構成が大きく変わることはなる。まず、5話それぞれで異なる主人公を想定していたものが、全話を通してひとりの主人公に変更となった。

「後に単行本化を想定するならば、短編集ではなく、1人のひとつの物語になっていた方が、賞の対象にもなるし、映像化も考えることができる」。編集者の提案だった。「150周年」の記念事業の枠を越えた、その先の広がりを見据えていた。それでも、2冊目以降から手に取った読者も読めるような書きぶりや導入にする、ということとはチームの共通認識として念頭にあったという。

そして、全話を通して1人の主人公にする代わりに、話ごとに鍵となる教員を登場させることにした。異なる専門を持つ教員を主人公の学生生活を通して描くことで、多くの学部を擁する北大の多様性を表現する。小説の中に登場する教員は、すべて実在の北大教員がモデルとなっている。

例えば、第1話「教養棟の蛙たち」の鍵となる教員のモデルは、「蛙学（あがく）への招待」を開講していた鈴木誠教授（高等教育推進機構・理学院・2021年3月定年退官）だった。

「蛙学への招待」とは、蛙を題材にして生態や文化を学び、解剖や野外観察・学生による授業まで行うこと

により、研究者としての問題解決能力を養う講義。学生たちは発表や学生授業の準備のため、徹夜を重ねる。また、この講義の山のひとつである解剖実習は、午後4時半から始まり、午後11時までかかるという。

受講する主人公「泉ひばり」や、その周りの学生の迷いや衝突、成長を描いている。鈴木教授は既に定年を迎えているため現在は「蛙学への招待」は開講しておらず、岩井さん自身が履修していた科目ではなかった。

しかし、非常に特徴的なこの講義を取り上げたいというのは、岩井さんと祥伝社の強い希望だったという。

関係者への取材

1話ごとにある授業や教員を取り上げるためには、綿密な取材が欠かせない。現在は道外に住んでいる岩井さんが、北海道に足を運び、1日かけて取材を行うという。第1話「教養棟の蛙たち」の執筆に当たっては、実際の「蛙学への招待」の受講者の声を聞くことが必要だった。卒業生から過去の受講者を探し出し、インタ

ビューを行う。卒業生が受講仲間を集めたことからつながら、最終的には集団でのオンラインインタビューにまで広がった。

岩井さん自身は鈴木教授本人への取材は予定していなかったが、卒業生の紹介により鈴木教授とも直接対談を行ったことで、より深みのある形でこの講義を取り上げることができたという。

イラストレーター・

岩間さんとの邂逅

「作品として本を出すに当たり、表紙とかイラストが絶対必要」だったと話す野口さん。北海道にゆかりのあるイラストレーターを探していた。見つかったのは、水彩画風の優しいタッチで自然を描く岩間翠さん（生命科学院修了）。

野口さんが岩間さんと初めて顔を合わせたのは、2025年の年明け。趣旨を説明し依頼すると、岩間さんは「私でいいのか」と驚きながら「ぜひ協力したい」と快諾してくれたという。岩間さんのイラストが、この小説を彩ることが決まった日だった。



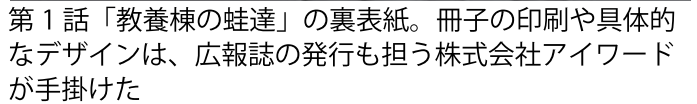
岩間さんが手がけた表紙絵。雪解けの季節の「教養棟」が柔らかい色彩で描かれている

未経験の学生・主婦など 様々な人が活躍してます！

詳しくはコチラから↓↓

一緒に朝日新聞の魅力伝えませんか？

印刷を手がけるアイワード



ジンギスカンパーティー

全国の書店の協力と
メディアの取材

「最初は北大に足を運んでもらって手に取ってもらえればと思っっていたけれど、よく目的に立ち返ったときに、やはり絶対、外でいっぱい(冊子を)手に取れるようにしたいなと思った」と野口さんは話す。北大の構内以外には、北海道庁旧本庁舎(赤れんが庁舎)、札幌市時計台、道内の書店、配架を打診すると、いずれも快諾を得ることができた。

そして当初は、道外への冊子の供給のため、北海道庁の委託により運営されているアンテナショップ「どさんこプラザ」への配架を計画していた。全国に複数店舗を持ち、以前北大創基150周年のパンフレットの配架にも応じてくれていたため、絶好の配架場所だと思われた。しかし、「将来的な書籍化は営利目的にならない」と、計画は頓挫。

「実は……」焦った野口さんは、祥伝社との打ち合わせで相談をした。「道内のように書店さんにも協力いただけないでしょうか」。祥伝社の販売部から返ってきたのは、「この企画は、本の世界を元気づけるような企画。書店は絶対に乗ってくるから、道外にも声をかけてみます」という、力強い言葉だった。

候補に上がった数々の

ている「北極星をえがく」

「非常に協力的な大型書店
 がいくつもあり、取っても
 らいやすい置き方してく
 れていたり、全国の全店舗
 に置いてくれたりしてい

る」。大きな書店だけではない。規模の小さい書店からも配架の希望がある。「おそらく岩井さんファンの書店員さんがいて、ぜひうちでもやりたいと言ってくれてる」。

広報課側の予想以上に、
たくさんの書店が応じてく
れた。もともと配架しよう
としていた皆さんこプラザ
の店舗数を遥かに上回る数
の配布場所ができた。「結果
的にはよかったかな」と、野
口さんは安堵の声を漏らす。
メディアの反応もよかつ

北大の外での需要に答えるため、学内よりは学外を優先して配布しているという。「学外の方々に北大の今を知ってほしい」という目的のためだ。

野口さんが驚いたのは、赤れんが庁舎に置いた冊子の人気ぶりだ。「1コーナーにはさせてもらっていたけれども、有料の施設だし、（人が取りに）あまり来ない

かなと思つていた」。しかし、配布初日から150冊がすべて捌け、再度配置するたびになくなった。赤れんが序舎では、累計1500冊以上が来訪者の手に渡つたという。

農学部のワイン教育研究センターは、小説と現実が重なる場所。本作の主人公の実家がワイナリーであること、現在のワイン教育研究センターのセンター長が、岩井さんが所属していた研

研究室のかつての准教授だったこと、縁が重なり、週末には学外からの訪問者が訪れる場所ということもあり、配布場所のひとつとなった。

北大創基150周年と
「北極星をえがく」
読者に向け、「ここから『北

もちろん、学生が対象でないということではない。主人公は学生と同年代として描かれている。「自分の学びをもう一度考える機会になったりとか、等身大の形で読んでいただきたい」。友達のような感覚で読める、という声も上がっているという。

小説は好評だが、増刷は
予定していない。
2026年7月に行われ
る最終話の配布で終わりで
はなく、単行本化も見据え
ているという。

小説作りのため 関係者
とともに奔走してきた野口
さんは、ここまでの道のり
を振り返り、「どこでもやっ
たことがない企画だったの
で、新しい企画で楽しかつ
た」と言っ

初の試みは、岩井さんの
執筆の早さに助けられたと
ころもあつたという。「すご
いスピードで書いていただ
いていて、我々がこうい

期間でやりたいですと言ったのにも応じていただけたので、非常にありがたいなと」。そして「深い北大愛を感じる。前向きに北大に想いを持って応じてくれる」。

に取ってもらえるとは思いますが、実際に配布開始して、どれだけの人が手に取ってくれるかなど。岩井さんの本だし間違いないだろうと思いつながら、そこは少し不安だった。今はこういう形になっていてありがたいなと思ってますね。」

第1話が大きな話題を呼んでいることについても、「ありがたい」と話す野口さん。「北大だけでどんなに何かやっても発信しても限りがあると思うんです。今回

は、岩井さんも書店さんも発信してくれてわーっと広がって、うちだけでは考えられないような「反響」が得られているという。「そういうことができたというのは、本当にいろんな協力をいただいて」「私としては本当に画期的な話だなと思っております」。

北大への愛の結晶である
この小説。ぜひ手に取り、
岩井さんと岩間さんが描く
北大に遊びに行ってみてほ
しい。

なお、本作品についての
詳細・配布場所等の情報は、
北大HPを参照。
(取材・執筆・撮影…品村)

マーケティングチーム イベントアルバイト募集



株式会社朝日サービス

〒060-0001
札幌市中央区北1条西1丁目6番地 さっぽろ創世スクエア9F

- 日払いのスポットワーク
働きたいときに働ける！
- 充実した研修
- 交通費実費支給
- 時給 1,300 円～
インセンティブあり！



店の外観（札幌市北区北 15 条西 4 丁目）



北大

飲食店列伝

第 6 回

カレー食堂 心

「全人類」に愛される一杯

北大飲食店列伝・第 6 回の舞台は、札幌名物であるスープカレーが人気の「カレー食堂 心」。オーナーの開（ひらき）加津也さん（56）に話を聞く中で、北大周辺を中心にスープカレーの普及を支えた、ソフトで食べやすい心のスープカレーの奥深さが見えてきた。

心創業秘話

一般的なスープカレーの特徴は、さらりとしたスープ状のカレーに骨付き鶏やカットされた野菜が入っていること。1999 年頃から札幌で起こったスープカレーブームにより大衆に広まっていった。当時、北大周辺の北 12 条から北 24 条では急激に飲食店が増えており、その多くはカレー専門店だった。

もともとは音楽関係の仕

事をしていたというオーナーの開さん。「28 歳から飲食業界に入って、そこからコックを始めたから、コックとしては結構遅咲きなんだ」と当時を振り返る。最初の修業先だったフレンチの店が別の業態で出店する際に、スープカレーが好きだった開さんが「カレー食堂 心」の前身である「らっきよ」を創業。その後北大周辺に姉妹店として「心」をオープンした。

しかし、まだ当時のスープカレーはあまり大衆的ではなかったという開さん。「その頃ね、スープカレー屋さんとかって結構こうマニアックな、地下に入っていて、インド民謡がかかって、木彫りの象が飾ってて、みたいなそういうイメージがたぶん強かった」「1 人でも入りやすいお店にしたい」と思っていて、こういうちよつとポップなお店を目指してやってた」と語る。

今や全国に普及している「スープカレー」という食文化を広めたのは、心を筆頭とする北大周辺の多くのスープカレー店だったのである。

客層については、北大生や会社員、観光客のほかにも、家族 3 世代での来客が多いそうだ。「上の世代の人たちって、スープカレーが元々ない文化だったから馴染みがないはずなのに、うちのお店この味は、割と気に入ってもらってる」という。開さんは「客層は、何

てことはないんだよね。ざっくり言うとなんか、全人類って感じだね。本当に色々な国の人が来るしね」と嬉しそうに話す。

独自のスープ製法

心のスープカレーには、フレンチの技法「フオンドヴォー」が使われている。フレンチの基本となる、子牛の出汁だ。しかし心では本来使う牛の骨に加えて、豚と鶏の骨を加えた 3 種の骨を使用。10 時間半ほど大きな寸胴で煮出して出汁を取り、それをベースにスパイスや調味料を混ぜ、スープを作っているという。それだけではない。驚くべきことに、心のスープカレーにはこうしたフレンチの技法に加えて、スリランカスタイルで配合されたスパイス、昆布や鰹などの和の出汁、さらには中国のホワジャオというスパイスまで入っているという。

複数の味を重ねるこの調理法を、開さんは「レイヤーになっている」と表現する。「和食だけだったら和食の技術だけ集めて、教科書通りに作れば大体できるんだけど、（心のスープ作りは）誰もやってたことないから、バランストか試行錯誤がすごく難しく。本当に何百回も試作してっていうような感

じだね」と語る。しかし、まだレシピが安定しきっていないわけではない、と開さんは言う。「ここ何年かはレシピを固めてるけど、営業しながらも試行錯誤をしてって、ちよつとずつバージョンアップしてやってかないと、飲食店は売れないんだよね」と、飲食店の難しさを教えてくれた。

一方、メニューはオープンから 24 年間一度も変えていないという。「新しいものをどんどん提供してって、お客さんを飽きさせないようにつけていうよりも、スープの中身をバージョンアップさせていくっていう。だから、オープン当初の同じ骨付きチキンのスープカレーと、今の骨付きチキン

のスープカレーって、見た目は一緒だけど、中身はほとんど変わってっいてる」と語る。開さんおすすめメニューは「とり野菜のスープカレー」。「うちのテイストが詰まってる」という。一方で、スタッフの一押しメニューは「納豆&チキンのスープカレー」で、まかないで人気だそう。

北大生との「縁」

北大生とのエピソードについて聞くと、「初期の頃に来てくれたお客さんとか、今でもやつぱり来てくれたりとか。北大卒業しても個人的なお付き合いがある子とか、果ては結婚式呼んでくれた子もいる」という。また、「開さん覚えて

いますか」と開業して間もない頃の心の常連さんから突然電話がかかってきたこともある。その人は北大卒業後に飲食系の会社に就職し、その系列の 3 店舗ほどのオーナーをしていた。「開さんのところで食べてたお米の味が忘れられなくて、使ってるお米を分けてくれないか」と話で。コロナ禍でうちもお客さんも半分以下になって、年間契約のお米が余って困ってた時に、十数年ぶりに連絡くれて、『じゃあ、うちのお米、よかったら使え』ってことで、東京の 3 店舗で使ってもらうとかね。そういう縁を、北大生にはいただくんね」と懐かしそうに語ってくれた。

取材の翌日、記者が実際に

に「納豆&チキンのスープカレー」をいただいた。さらさらでマイルドなスープに納豆とオクラの触感がよく合っていて、口いっぱいスパイスの香りと納豆の旨味が広がった。

独自の製法から生まれる美味しさで、北大生をはじめとする多くの人々を虜にしてきた名店の一皿、読者の皆様もぜひ味わってみてはいかがだろうか。

記事全文は公式 HP で

（取材・執筆・撮影：木本）

7 月末カムチャツカ半島沖地震 練習船に津波被害なし

7 月 30 日、カムチャツカ半島沖の巨大地震（マグニチュード 8.8）により、函館キャンパスが位置する函館市では、最大 40 センチの津波



被害を免れたおしよる丸（奥）とおしお丸（手前）

を観測（函館港、30 日午後 7 時）。同キャンパスでは、臨時避難場所として管理研究棟が開放されたほか、7 月 30・31 日が臨時休講となるなど、影響を受けた。

津波警報発令時、北大水産学部附属練習船おしよる丸（総トン数 1598 トン）は港内に停泊、また同練習船おしお丸（総トン数 262 トン）は津軽海峡上を調査航海中だったことが北大新聞の取材で分かった。今回の津波による被害はなく、その後の航海や、夏季休暇中に

行われた基礎乗船実習を含む実習への影響は確認されていない。

また当時、おしよる丸が港外退避ではなく、係留避泊（岸壁への係留強化などによる安全確保の対応を取った理由について、函館キャンパス事務部船舶担当は「警報発令から到達予想時刻までが短く、乗組員を集合せた場合、本船に向かってる際に遭難する可能性があること、必要最低限の乗組員集合から出港準備完了までには少なくとも 1 時間を

要し、出港前に津波が襲来する可能性が高いこと、仮に津波襲来前に出港することが出来ても、安全な海域（水深 50 メートル以上の津波の影響を受けない安全な海域）まで達する事が出来ない可能性が高く、その場合係留避泊より危険な状況に陥る可能性があること」を挙げた。

またおしお丸については、テレビ及びラジオで情報収集を続け、水深の十分な海域にいたことから、調査を実施しつつ警戒にあたっていたとしている。

（取材・撮影・執筆：高野）

北海道大学新聞 創刊 100 周年

北大新聞は皆様のおかげで 2026 年 5 月 14 日に創刊 100 周年を迎えます
活動継続のためご寄附を募集しています

